

議案外質問(11月29日) さはしあこ議員

妊産婦・乳幼児「専用」の福祉避難所の設置を 緑区での乳幼児健診時の避難訓練を16区に提案

さはしあこ議員は11月29日の本会議で、災害時における福祉避難所の問題と、保健センターでの乳幼児健診時の避難訓練について質問しました。

「必要に応じて、福祉避難所で 受け入れる」 (健康福祉局、子ども青少年局)

さはし議員は、災害時に妊産婦・乳幼児を守る支援の仕組みづくりについて2016年11月の本会議でも追及し、専用の福祉避難所の開設を求めました。しかし、その時には「どういったことができるか関係局と検討していく」(健康福祉局長)とまでの答弁で、福祉避難所の対象とすることは認めませんでした。

さはし議員は、市が根拠にしている「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」(2016年4月)をまとめた内閣府の担当者と直接面談し、「妊婦・乳幼児を福祉避難所に搬送することは自治体の判断にまかせる」という見解を得たことを紹介し、市の対応を迫りました。

それに対して、「まず一般の指定避難所に避難していただいた上で、必要に応じて、指定避難所の福祉避難スペースや福祉避難所をご利用いただくよう考えている」(健康福祉局長)、「一般の指定避難所の福祉避難スペースでも避難生活が困難な方については、福祉避難所で受け入れる」(子ども青少年局長)と回答、

前回の質問時から前進しました。

専用避難所 が必要

上記の回答を踏まえ、しかし既存の福祉避難所である高齢者・障害者の施設を妊産婦・乳幼児が利用することは難しいことから、さはし議員は、他の自治体の事例を示しながら専用の福祉避難所を設

置するよう求めました。京都市は、京都看護大学をはじめ全区で大学と妊産婦・乳幼児専用福祉避難所を設置する協定を締結しています。県内でも、江南市が愛知江南短期大学と協定を締結、乳児とその保護者の受け入れに特化した避難所(こーたん避難所)を設置しています。

具体例を示しつつ、さはし議員は、市内で一番子どもが多い緑区選出の議員として、健康福祉局と子ども青少年局が協力し、妊産婦・乳幼児専用の福祉避難所を設置する決断を一刻も早くするよう求めました。

子育て支援拠点の活用を提案

小さな子どものいる家族が他の避難者への気遣いをしないで避難生活を送る方策として、さはし議員は、市内に約50カ所ある「地域子育て支援拠点」の活用を提案しました。子ども青少年局長は、「避難所として活用するには多くの課題がある」としつつ、「災害復旧後にはすみやかに拠点機能を回復し、早期の開設に努めることは必要」と述べました。

乳幼児健康診査の避難訓練 緑区に学び他の保健センターでも

各区の保健センターで実施されている乳幼児の健康診査(3カ月健診、1歳6カ月健診、3歳児健診)は市全体で年間延べ約6万人になり、健診日数は多い区では月10回実施されており、2日に1日は、乳幼児とその保護者が健診に訪れています。その比率から健診中に地震が発生する可能性はかなり高い。

緑保健センターでは、昨年度、初めて健診時に地震避難訓練とシェイクアウト訓練が実施され、「大変役だった」「身を守る訓練は良かった」と好評で、教訓とすべき検討課題も明らかになりました。

さはし議員は、こうした取り組みを他の保健センターでも実施するよう提案し、「区によって状況は様々だが、緑保健センターの内容を他の保健センターにも情報提供し検討を呼びかけたい」(子ども青少年局長)と前向きな回答を得ました。



安心して避難生活が送れる空間はとっても大切!!
愛知江南短期大学は、安心できる子育てのために防災でも地域貢献します!

江南市福祉避難所

愛知江南短期大学
こーたん避難所

「こーたん避難所」とは?
地震などで被災した0~2歳児とその保護者が一時利用することができる施設です

5号館

もくれん館

愛知江南短期大学
〒483-8006愛知県江南市高塚町大松原172
TEL (0587) 55-6165

裏面もご覧下さい。

乳幼児と保護者に特化した「こーたん避難所」の案内チラシ(江南市)